

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年 3月 16日

コミュニティ名 Edu Space
代表者所属名 宇治田原小学校
代表者職・氏名 教諭・尾崎由芽

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

Edu Space

2 研究テーマ

児童の実態に基づくよりよい学習環境への整備について
～子どもも大人も笑顔の学校へ～

3 研究の目的

子どもの学ぶ環境を整えて、一人一人をていねいに見て、その子が本当に必要
なところを支える個別最適な学びの原理となる子どもの学ぶ環境づくりについ
て研究したい。ここでいう環境とは、子どもが自己発揮できる授業や活動や遊
びを誘発する環境（時間・空間・人間）のことであり、環境の中に教育的価値
を含ませながら、子どもが自ら興味や関心をもって環境にかかわり、試行錯誤
を経て、環境へのふさわしい関わり方を身につけていくことを意図したもので
ある。

4 研究の成果と課題

・子どもの「学びたい、やってみたい」という思いが引き出される環境整備の
研究をとおして、授業や活動、遊びの中で子どもが自己発揮し、子どもの主体
性を育むことができた。
・子どもの実態を踏まえたRV-PDCAサイクルを意識した研究にチームで取り組
むことが課題である。

5 研究成果の波及方法

- ・校内研修を行い、活動内容や研究成果を報告して、助言を受けたり、交流したりした。
- ・実践報告会で交流した別のコミュニティの教員の学校より学校訪問の依頼を受け、授業参観や研究の概要の説明をする機会を設けた。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年6月14日	他校研究会参加 言語能力と豊かな表現力を育む、「かがやく時間」を核とした教育課程の研究に学ぶ。	奈良女子大学附属小学校
令和7年7月	校内研修 研究の進捗状況の交流及び方向性の確認	宇治田原小学校
令和8年1月19日	こども園訪問・見学 主体性を育む保育の実践及び幼児教育における環境設定について学びを深める。	みんなのき黄檗こども園
令和8年2月17日	公開授業 5年「速さ」授業者 藤田 ガイド学習を活かして主体的に学びに向かう児童を育成する。	宇治田原小学校
令和8年2月26日	公開授業 5年学級活動「高学年よろしく会を開こう」 授業者 尾崎 学習指導と生徒指導の一体化を図り、学習活動を通して、自己や他者の考えを見つめ、よりよい行動を主体的に選択しようとする態度を育てる。	宇治田原小学校
令和7年6月～ 令和8年1月	効果検証 学びのパスポートの質問項目の心理的安全性に関する質問を6月と1月に実施して、その変容を分析し、効果検証を試みた。	宇治田原小学校

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	児童主体の学校生活改善やルール形成
育てたい資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者と関わり協同する力 ・ 心理的安全性の確保 ・ ウェルビーイングの実現
実践又は研究の 具体的内容	<p>本コミュニティは、主に同一小学校に勤務する教員で構成されている。メンバーの多くが初めての異動を経験していたり、単学級を初めて担当したりする状況にあった。また、コロナ禍の影響により、子ども同士が人間関係を形成する経験が不足し、トラブルが生じやすい状況も見られていた。さらに、教職員においても、教員文化が十分に継承されていないという課題があった。</p> <p>そこで、本校では、学校全体で子どもも大人も「人とのつながり」を重視した学校づくりに取り組んできた。</p> <p>本研究では、上記のテーマに基づき、「人とのつながり」を意識しながら、様々な実践および研究に取り組んだ。</p> <p>奈良女子大学附属小学校の学習研究会を訪問した際には、児童一人一人がのびのびと発言し、主体的に学習を進めていく姿を参観することができた。これらの学びをもとに、5年生の実践として「かがやきの時間」および「算数科のガイド学習」に取り組んだ。</p> <p>実践の途中段階ではあったが、「かがやきの時間」の取組の成果や課題を校内研修で紹介する機会を設けたところ、取組が他学年・他学級へと広がっていった。さらに、各学年・学級の実践を交流することで、段階的かつ相互に影響し合いながら、実践の改善が図られていった。</p> <p>また、「算数科のガイド学習」についても、校内で複数回授業公開を行い、事後研究会を実施した。交流を通して得られた助言を日々の指導に生かし、授業改善を進めていった。</p> <p>5月に実施した「学びのパスポート」の質問項目のうち、心理的安全性に関わる項目に着目し、1月には4～6年生を対象に再度質問調査を行い、その変容を確かめた。</p> <p>その結果、心理的安全性に関わる3つの質問項目すべてにおいて、どの学年でも肯定的に回答した児童の割合が増加した。特に、本コミュニティが重点的に取組を進めた5年生では、「普段の生活の中で、自分がみんなとちがう意見や本当の気持ちを言っても、だれからも責められたり傷つけられたりする心配はない。」という項目において、1回目の調査と比べて約40%の増加が見られた。</p> <p>これらの結果から、「かがやきの時間」や「算数科のガイド学</p>

習」をはじめとした、学びや生活に関わる環境を整えたことが、子どもの心理的安全性に肯定的な影響を与えている可能性が考えられる。

また、こども園の訪問にあたっては、事前に研修会を実施し、幼児教育において豊富な経験と専門性をもつ先生から、幼児教育を見る視点について助言をいただいた。その中で、「しっかり遊び込んだ子どもは、しっかり学習する児童になる」という示唆を得た。

実際のこども園訪問では、園児の興味・関心や発達段階に応じた環境整備がなされており、子どもが夢中になる仕掛けや工夫の具体を学ぶことができた。これらの学びを小学校教育にも生かす視点として、「生活科ルーム」の整備を進めていくこととなった。

さらに、本校児童には遊び方の選択肢が少ない傾向が見られたことから、人とのつながりをより豊かにする一助として、遊び方を知らせる取組を行った。具体的には、児童会活動を通して、雨天時の遊びの取組や異学年交流を設定した。今後は、幼児教育施設のように、子どもが使いたいときに道具や材料を自由に活用できる環境整備をさらに進めていきたい。

本年度の取組の成果と課題を整理し、次年度の研究へとつなげていく。